

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	226人	社会	226人	数学	226人
	理科	225人	英語	225人		

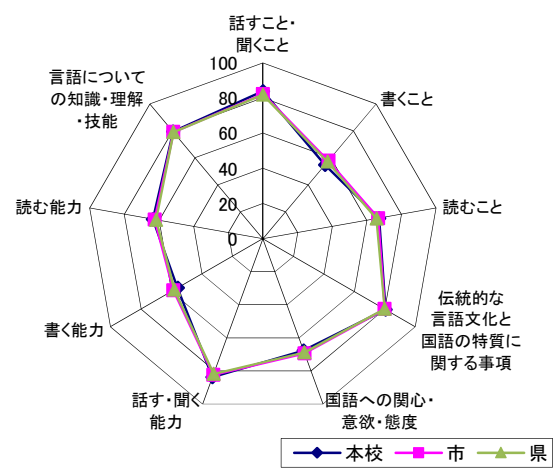
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	83.8	82.3	81.8
	書くこと	54.9	58.0	57.2
	読むこと	67.1	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.6	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	67.6	69.4	68.8
	話す・聞く能力	83.8	82.3	81.8
	書く能力	55.9	58.8	58.1
	読む能力	63.5	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	79.5	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

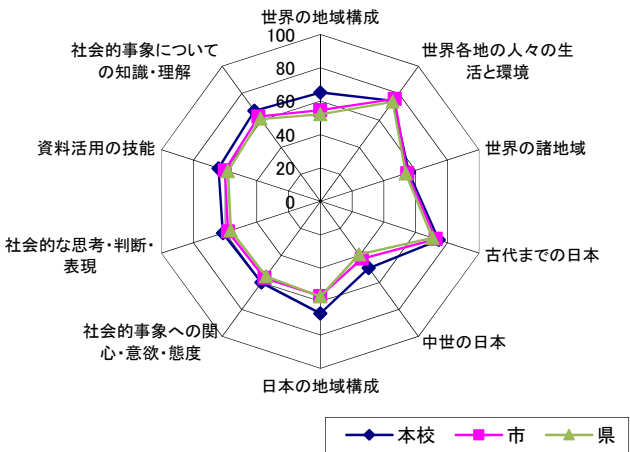
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市平均を1.5ポイント、県平均を2.0ポイント上回っている。	・話を聞くだけでなく、その後、自分の考えをまとめるところまで意識できるよう、指導していきたい。
書くこと	●市平均を3.1ポイント、県平均を2.3ポイント下回っている。 ○「伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書くことができる」では、県平均を5.5ポイント上回った。 ●作文では、すべての項目において、県平均を下回った。	・作文に対する苦手意識が顕著になった結果である。授業の中で、自分の考えをまとめて、書いて表現する活動を積極的に取り入れたい。また、型にはめた作文構成を指導したり、生徒の語彙力を増やしたりなどして、作文に対する苦手意識を取り去りたい。
読むこと	○市平均を3.2ポイント、県平均を4.8ポイント上回っている。 ●「文章の展開に即して内容をとらえることができる」では、県平均を4.8ポイント下回った。	・県平均を下回った設問は、1問だけであった。授業では、段落や接続語に注目させながら、「文章の展開に即した内容を捉えることができる」を丁寧に指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市平均を0.5ポイント、県平均を1.6ポイント上回っている。 ●「漢字を書く」設問では、全ての設問で県平均を下回っている。	・「漢字を読む」設問では1つの設問以外県平均を上回っているが、「漢字を書く」設問では、全ての設問で、県平均を下回っている。日頃の授業の中でも、新出漢字の指導などで、漢字を正確に書かせる等、細かい指導をしていく。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	65.3	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	74.5	75.9	73.7
	世界の諸地域	55.8	54.8	53.9
	古代までの日本	74.6	72.7	70.5
	中世の日本	49.3	42.4	39.3
	日本の地域構成	67.1	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	60.0	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	61.4	58.1	56.4
	資料活用・技能	64.1	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	67.1	62.9	61.1



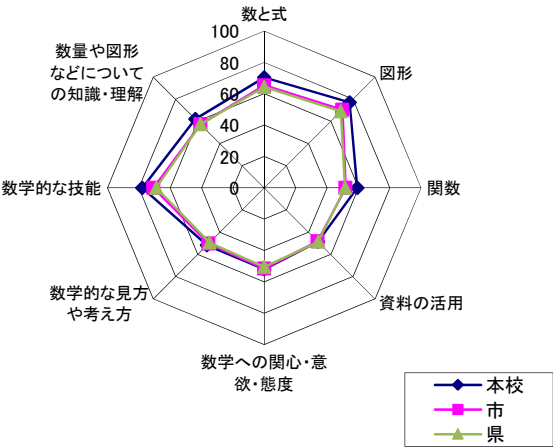
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○地図のちがいについての問題は県の値を13ポイント以上上回った。 ○世界の地域区分など知識理解の問題は84.1%と高い正答率を示した。 ●正距方位図法の読み取りの問題は、県と比べて22.8ポイントと高い値を示したが、正答率は49.6%となった。 ●思考力や技能表現の内容が数値が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・社会科の授業を通して地図を活用するなど地図に触れる機会を増やしていきたい。
世界各地の人々の生活と環境	○乾燥帯の人々の生活の様子について84.1%の正答率を示した。 ○高山気候の問題が県の値を8.6ポイント上回り、雨温図の読み取りが定着していることが分かった。 ●冷帯の人々のくらしを複数の資料から読み取る問題は県の値を11.2ポイント下回った。	・気候と人々のくらしを関連付けた学習活動を行いたい。特に冷帯の気候に暮らす人々の様子についての理解が浅いので重点的に学習を行いたい。
世界の諸地域	○オーストラリアの貿易やアジアの風土など知識理解の問題は、県の値をいずれも7.4ポイント上回った。 ●ヨーロッパの経済格差やモノカルチャー経済について資料から考察する問題は県の値を下回った。 ●北アメリカの地形を資料から読み取る問題は、県の値を下回った。	・世界の諸地域について知識の定着が図れているが、グラフや写真資料から適切な情報を探し出して分析する力や自分の考えをまとめて表現する力が弱い。そのため知識の定着も長続きがしない。今後、資料を読み取る活動や自分の考えをまとめる学習活動を授業に取り入れていきたい。
古代までの日本	○聖徳太子の政治について資料から読み取る問題は県の値を13.1ポイント上回り、90%の生徒が正解した。 ○弥生時代～古墳時代の外交について資料から考察する問題は、県の値を15.1ポイント上回った。 ○国風文化の知識理解の問題は県の値を7.9ポイント上回った。 ●縄文時代以前の文化について県の数値を下	・有史以前の内容の定着が弱いということで、過去に学習した内容の定着が弱い。さらに人物や出来事など名称が明確な内容については理解が深い、「世界各地の人々の生活と環境」と同じように特徴を捉えるなどの内容が弱い。そのため今後既習内容を取り入れた授業を工夫し、また広く特徴を捉え説明するような学習課題を設定したい。
中世の日本	○執権政治のしくみの知識理解の問題は、県の値を22.2ポイント上回った。 ○戦国大名の支配についての思考判断の問題は、県の値を9.8ポイント上回った。 ●封建制度について資料から読み取る問題と建武の新政の知識理解の問題は、県の値は上回ったが、正答率が31.9%と低い。	・資料から読み取る問題が弱いので引き続き、授業の内容でも資料問題を取り入れていきたい。
日本の地域構成	○日本の標準時子午線の知識理解の問題は県の値を17.5ポイント上回った。 ○日本の排他的経済水域の知識理解の問題は、県の値を12.6ポイント上回った。 ●日本の領土問題の知識理解の問題は、県の値を上回ったものの53.1%の正答にとどまった。	・日本の領土をめぐる問題は、進捗の関係でテストの実施時期に十分に授業での扱いができていなかった。学習を終えた現在では理解も深まっていると思うが、大切な内容なので継続して取り扱ってきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	70.4	65.4	64.4
	図形	77.0	70.5	69.0
	関数	59.3	51.9	51.5
	資料の活用	48.5	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	51.9	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	51.7	50.2	49.4
	数学的な技能	77.8	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	62.2	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

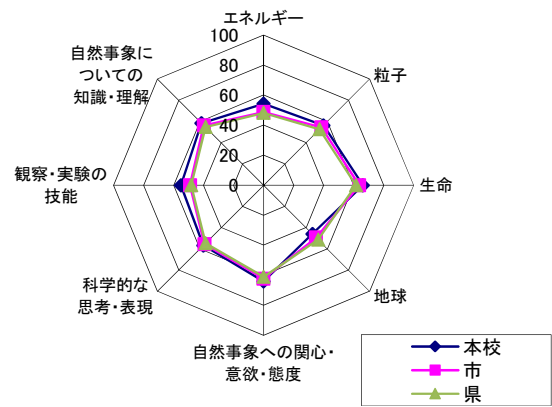
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の正答率は70.4%で、市の平均を5.0ポイント上回っている。特に「比例式を解く問題」では、正答率が80.5%であり、市の平均を18.1ポイント上回る結果となっている。 ●一次方程式を用いて文章題を解決する課題の正答率が29.2%で、市の平均を0.9ポイント上回るものの、改善が必要である。	・数と式の領域における正答率は全体として高いが、文章から立式し、解く問題の正答率が極端に低い。何を文字で置くのか、等しい数量は何か、その解が問題に適しているのかなど、手順を大切にしながら活用問題に積極的に取り組み、確実に解くことができるよう支援していく。
図形	○領域の正答率は77.0%で、市の平均を6.5ポイント上回っている。特に「垂線の作図」では、正答率が71.2%であり、市の平均を11.6ポイント上回る結果となっている。 ●おうぎ形の面積を求める問題では、正答率が66.8%で、市の平均を13.0ポイント上回るものの、引き続き学習を継続する必要がある。	・図形の領域における正答率は全体として高いが、用語や記号・体積や面積の求め方など、基本の問題を通して確実な定着を図っていく。
関数	○領域の正答率は59.3%であり、市の平均を7.4ポイント上回っている。 ●「関数の意味」について答える問の正答率は27.9%で、市の平均を4.3ポイント下回っている。	・関数の領域において、技能は高い正答率を得られている反面、数学用語としての関数の知識が乏しい。技能だけでなく、関数とはどのようなものをいうのか、身近な事象ではどんなものがあるのか、などといった視点を取り入れ、学習内容の一層の定着を図る。
資料の活用	○領域の正答率は48.5%で、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ●ヒストグラムの特徴を捉え、説明する課題では、正答率が28.8%であり、市の平均を9.4ポイント下回っている。	・領域の正答率も低く、数学的に説明を書くことに苦手意識が見られる。資料のどこに着目するのか、数学用語を用いてどのように説明するのか、根拠を明らかにして説明する力を付けられるように支援していく。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	54.3	48.8	48.1
	粒子	56.4	54.4	52.6
	生命	66.1	63.7	61.5
	地球	46.0	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.1	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	56.8	55.7	54.8
	観察・実験の技能	55.0	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	58.5	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

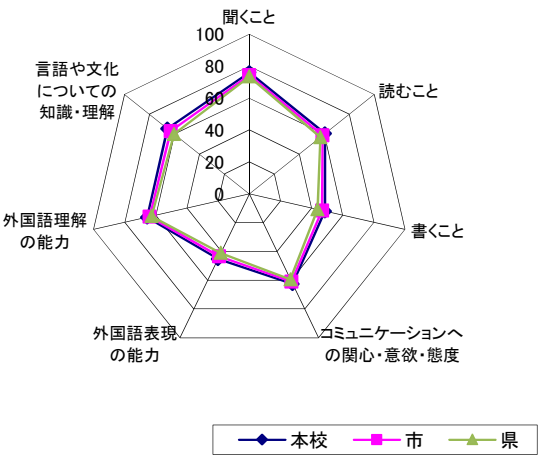
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の平均より5.5ポイント、県の平均より6.2ポイント上回っていた。 ○「光源から出た光の道すじを作図で表すことができる」では県の平均より17.5ポイント上回っていた。 ●「おもりにはたらく重力とばねののびの関係をグラフに表すことができる」では県の平均より5.8ポイント下回っていた。	・実験結果を誤差を踏まえながらグラフに表し、自分以外のデータも使うなどして、ばねののびは力の大きさに比例することを見いださせる。
粒子	○市の平均より2.0ポイント、県の平均より3.8ポイント上回っていた。 ○「水溶液をしばらく置いたときの溶質のようすを、粒子モデルを使って考えることができる」では県の平均より11.9ポイント上回っていた。 ●「金属に共通する特徴を理解している」では県の平均より5.7ポイント下回っていた。	・金属と非金属の違いについて理解させ、具体例をあげて説明する。 ・電気を通すこと、金属光沢などの共通の性質があることを説明する。
生命	○市の平均より2.4ポイント、県の平均より4.6ポイント上回っていた。 ○「軟体動物を指摘できる」では県の平均より19.8ポイント上回っていた。 ●「カメがハチュウ類に分類されることを理解している」では県の平均より4.8ポイント下回っていた。	・動物の写真や実物を用意し、関心をもたせる。 ・動物のなかまごとの特徴を手掛かりに、種類のわからない動物がどのなかまに分類できるかを推論させる。
地球	●市の平均より3.4ポイント、県の平均より5.4ポイント下回っていた。 ●「白っぽい火成岩をつくったマグマの粘度と、そのようなマグマによってできた火山の形を推測できる」では県の平均より13.2ポイント下回っていた。 ●「サンゴが示相化石であることを理解し、堆積した当時の環境を推測することができる」では県の平均より6.8ポイント下回っていた。	・3つ以上の火山の噴火のようす、火山の形を複数の方法で比べ、それらを関連づけながらマグマの性質の違いが火山の形に関係していることを推測させ、仮説を立てる。 ・化石の名前をあげて、その生物の生息環境を現在見られる環境と関連づけて推測させる。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	76.1	74.4	73.5
	読むこと	60.6	58.7	56.9
	書くこと	48.5	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	62.6	61.0	59.4
	外国語表現の能力	45.2	43.5	41.1
	外国語理解の能力	65.6	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	65.6	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校平均正答率は、市の平均より1.7ポイント、県の平均より2.6ポイント上回っている。 ○「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる」かどうかの問題では県の平均より6.3ポイント上回っている。	・今後も英語でのやりとりを中心とした授業展開を心がけ、授業の中で英語を聞くこと、話すことができる機会を多く設ける。 ・ALTを活用し、英語を使う意欲を喚起するとともに、英語を使う場面を多く取り入れる。 ・リスニングテストなどを増やし、まとまりのある英文の聞き取りを多く取り入れる。
読むこと	○本校平均正答率は、市の平均より1.9ポイント、県の平均より3.7ポイント上回っている。 ○「語形・語法を理解することができる」かどうかの問題では全ての問題において県の平均より6ポイント以上、上回っている。	・さまざまな英文の語形・語法の知識、理解力が高められるよう継続して取り組んでいく。 ・長文では、まず大まかな流れをつかみ、内容理解を重視して読解力を高めていく。授業内ではQ&AやTF問題などを取り入れ、内容を把握する演習をする。
書くこと	○本校平均正答率は、市の平均より1.7ポイント、県の平均より4.6ポイント上回っている。 ○「与えられた情報に基づいて、文を正確に書くことができる」かどうかの問題では、3人称単数現在時制の肯定文、canの文の両方で県の平均より8ポイント以上、上回っている。 ●「対話の流れに合った英文を書くことができる」かどうかの問題では、今回のテストの中で唯一県平均を下回っている。	・継続して、単語・連語や教科書の基本表現を繰り返し書かせ、暗記する演習を行う。さらに確認テストを充実させる。 ・今学習している英文がこういった場面で使われるものなのか、使用場面や目的を意識した授業を展開する。また、場面に応じた英文を書く演習を積極的に取り入れ、正しい表現を書く力を身に付けさせる。

宇都宮市立宮の原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「家で、学校の授業の予習をしている」と肯定的回答をした生徒の割合が60%と市よりも11.3ポイント高く、また「家で、学校の授業の復習をしている」と肯定的回答をした生徒の割合が80.9%と市よりも5.8ポイント高い。「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」と肯定的回答をした生徒の割合が70.2%と市よりも6.6ポイント高い。毎日の細かな担任等からの指導により家庭学習が習慣化している。	
●「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答の割合が69.3%に対し市や県の平均と比べて11ポイント下回っている。が、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」と肯定的回答の割合が92.5%と市より30ポイント上回った。授業のねらい内容を明確化し、学習内容を理解するとともに定着させるために授業の振り返りの時間を確保するように努めていきたい。	
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した生徒の割合が72.0%と市の平均より4.7ポイント県より11.5ポイント高い。話し合い活動の中で、自分の考えを文章にまとめて説明させる機会を多く設定していく。	
○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と肯定的回答をした生徒が72.0%で、市の平均より9.4ポイント高い。学級活動・各教科・生徒会活動等の様々な場面を通して生徒の頑張りを認め、自己肯定感をさらに高めていきたい。	
●ふだん(月～金曜日)、1日当たりのテレビ等の視聴時間1時間以上2時間より少ない37.3%やテレビゲーム等1時間以上2時間より少ない23.6%、携帯電話・メール・インターネットの時間30分より少ない26.2%と3項目とも市と比べて3～6%と上回っている。学校・学年便りや保護者会等で保護者への啓発活動を行い、さらに協力を求めている。	
○「家の人と学校のできごと・将来のことについて話をしていることがある」と肯定的回答をした生徒は、市や県の平均より高い。	
今後も生徒たちの可能性を最大限引き出していけるよう、家庭と協力をし指導に努めていきたい。	

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化 ・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化	・ねらい提示と振り返りを行う。 ・チャイム前着席や態度の指導を行う。 ・課題の提出を徹底させる。	・学習内容の明確化は、概ね徹底できている。 ・落ち着いて、授業に集中して学習することができる。 ・家庭学習の習慣は、定着しつつある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・話し合い活動は比較的良好にできているが、文章に書いてまとめることが課題	・「主体的・対話的で深い学び」の推進	・話し合い活動の中で、自分の考えを文章にまとめて説明させる機会を多く設定していく。